

農業従事者の自由時間活動の実態とその特徴

農村生活総合研究センター 安倍 澄子

目的…農家の兼業化に伴い農家世帯員の生産・生活基盤における同質性が崩れ、異質化多様化が進行した。また、農業機械化、労働生産性の向上により、自由時間増加傾向が指摘されている。だが、農業従事者における「自由時間・余暇」についての体系化した実証的調査研究は、極めて乏しい状況にある。従って、その実態を明らかにすること。また、生活基盤と自由時間・余暇との関連を捉え、農家生活の構造的把握を試みた。

方法…「自由時間・余暇」については、活動概念からのアプローチをとり、非拘束時間における活動を自由時間活動とし、36の活動項目を設定した。その36活動の年間実施頻度を捉えた。また、生活時間、家計権、休日の状況等の生活基盤の実態を捉えた。36活動と生活基盤相互の関連を、個人・家属性による差異に着目する分析を通じて生活を構造的に把握する研究方法をとった。調査方法は、基礎的資料を得る目的をふまえて全国の傾向を代表するよう14県を選定した。層化三段無作為抽出により対象農家を選出し、その数は414戸であった。郵送によるアンケート調査を実施し、対象農家65歳以下の夫婦のうち回答者は妻3284人、夫3013人であり回収率は各々79.5%、76.0%であった。

結果…実施頻度と行熟者率から36活動は、5グループに類型された。性・年齢・本人の仕事・学歴による差が有力な説明力をもった。都市居住夫婦と比較して、農業従事者は地域社会が用意する活動への参加頻度が高かった。36活動と労働時間とは負の相関を示し、自由時間、休日数、長い休み、自由なお金とは正の相関が認められた。基本的には、年齢が説明力をもつ。20歳代と40-50歳代との間に活動を含め生活様式の差異が認められた。